幼兒の昨日までの家庭に於ける遊び、卽ち生活そしてその心の生活をもつと〳〵よく知つてそこから出發しなければと――誠によく判り切つた事を重ねていひ度う御座います。

どんな設備を、どんな環境を、どんな保育材料を、どんな方法でと保姆としては只今一番眞劍に考へて工夫し準備する事は、何をおいても大切と存じますが、その源ともなるべき母親としてのこの心持を心として、幼兒一人一人をそして凡ての子を抱擁しようと、兩手をひろげ心を打ちひらいて待ちかまへ度う御座います。

○ 福島縣郡山幼稚園　一保姆

天使の樣な幼兒を新らしくお迎へして、『先生』『先生』と慕はるゝ尊き使命の下に、働かせて頂きます私達、考へますれば考へます程、其任の重きを感ぜられます。

『正月が來て、お年が一つ殖えた、今年は幼稚園に行くのだ』と待ちに待つて這入つて來るお友達です。『幼稚園は好きな所』と心から喜んで通つて來て呉れます樣に、申分のない保育を致します事は私達の當然の務めでございます。しかし此事は言ふには易く實際には難しい、亦簡單なやうで、なかなかに容易ならぬ業でございます。況して眞に一人々々の個性に卽した、誤りのない保育をしたいと念じます時に、更に一層の不安を感じまして、いつもいつも相濟まぬ思ひに滿されて居ります。

毎年入園式の折には、主事先生から親さん方に『子供の心を固くしないで下さい』『幼稚園は家庭の延長したもので決して不自然な事を强いませぬ、お家に居られた時の心持をかへたくない、たゞお友達が今迄よりも大勢居て、いろんな事をして遊んでくれる所。先生はまたお母樣と同じ心

で、よくお面倒を見て上げる方、どんな事でも遠慮せずにお話なさい』等といはれますが、その度に何んとなくクスグッタイ氣もいたしますが、亦大きな聲で、『出來ます限り、天與の靈芽を害ふことなしに、日光のやうな暖かさと、誠のあふるゝ潤ひと、情けのこもつた柔かさとによつて、圓滿なる伸展を遂げさせて上げますよ。どうぞ親さま方も御援助下さいませ』と、叫び度くも思ひます。

しかし私達が、譬令このやうに思ひましても、子供達は仕組の變つた建物から、眞底の知れぬ先生、親しみ合はぬお友達の樣子を見て、おど〳〵して不安さうな樣子をしてゐるのでございます。そして始終母親からは『幼稚園は家とは違へますぞ行儀をよくせよ、先生の仰る事をよくきけよ』と鹿爪らしい注意をされてゐる事を思ひます時に、子供心にも一種の緊張味を覺えずには居られぬのであります。家戀しさ、母なつかしさに、幼兒の笑顔は自然に曇り勝ちになります。こうした雰圍氣の中に於ける保姆は、一切の俗情を清めていとも純潔なる母親となり、極めて明かなる愛を以て子供を抱擁せねばなりませぬ。子供は今何を求めて居るや、何を希望して居るやを深く洞察いたし、その慾望を叶へてやり、その個性を伸べてやらねばなりませぬ。それには幼稚園自らが、門外へ歩みを運んで、家庭へ家庭へと繫がれて行かねば、一人〳〵の保育はおぼつかないと存じます我が園では、兎に角、入園願書を家庭から請求されました時に、『幼兒日常の聽き取り書』といふ別紙の印刷物をお渡して、入園前に、既に家庭に於ける幼兒の生活狀態を豫め知つて、成るべく小勢の組を澤山作り、一人々々の幼兒に、適切な幼稚園生活を提供したいと念願してゐます。悲しいかな、土地の具合と、經費の都合とで、存分の事は

出來ませんが、室内の遊具園庭の運動具等、よく調査いたしまして、數を殖やすやら、繕ふやらいたし、花壇の整理など、なかなかに努力を惜まぬのであります。室内の裝飾には、とり分け心を用ひ、些細な點にも深き注意を拂つて、家庭らしさを十分に室内にとり入れますやう、努めます。見るからに明るい氣分。觸るるからにやわらかい感じのする室としてしつらひます。

こうして建物の家庭らしからぬ點を補ひたいと思ひます。そして幼兒達の心の取扱としては、放課後毎日保姆職員が寄り合ひまして、その日の出來事を語り合ひ明日の仕度に移ります。以上まとまりのない事を申上げてお答へといたします。

× × × × × ×

	聽き取り書	の組 氏名
一	食事は日に三度正しく食べますか。	
二	挨拶は、來客の時或は長上に對しよくいたしますか。	
三	幼稚園に來ることをのぞんで居ますか。	
四	見た事聞いた事をよく話しますか。	
五	金錢はつかひますか毎日いくら位與へますか。	
六	自分の品物をよく始末しますか。	
七	遊びは内外どちらの遊びを好みますか。友達を集めて來ますか。	
八	玩具はどんな物を好みますか。	

九	お事と異實とはどちらが好きですか。
一〇	お宅のお宗旨は何ですか。
一一	夜は誰れとねますか一人ですか。
一二	幼稚園への御希望をきかせて下さい。

昭和五年　　私立郡山幼稚園

○

東京市番町小學校附屬幼稚園　檜山　京子

今(三月)私の心持は送り出さうとする子等の一人〳〵の上に、いつぱいに働いてゐます。「おはよう」と呼びかけられてから、歸て行くまで、更に仕かけて行た製作物に「明日までこはさないでね」とたのまれた砂場や積木の構成物に、出しつぱなしにした鋏に。

一方事務的には、日に日に机上に積まれて行く入園願書の紙片を受附け、幼兒名を機械的に讀みながら、備品の修繕に、玩具の買入れに、新學期の爲にといふ事は念頭にありながら、それがまことに、習慣的と云ひますか、惰性的と申しますか不忠實な心の狀態に居ります、「新入幼兒を迎へんとして」かういふ題をいただいて私は、ぱつたり行き詰りました、なぜなら私の心はあまり今の太郎さんや、花子さん達を眺めすぎて、そこにばかし生きてゐましたから、「幼稚園は滿四才から滿七才までの三年保育にはなれないのかしら」などゝ思ひながら今の幼兒の行く手ばかしを見てゐるので。

ここまで書いてゐた私は「今下さるには無理な題なんだ」と思つてゐました。けれど月刊雜誌の三月號としては、當然などいふより適材適所といふべき、金的の樣な題であるとも思ひました。そ